

## 2005年7月号 カースト～いまだにはびこる身分差別

NI No.380 July 2005  
Caste - the hidden apartheid

< 内容 >  
(本文は英語です)

カースト制度に立ち向かう  
カーストという大昔の抑圧手段が、いまだにはびこっている。その抑圧の現状と、人間としての尊厳を勝ち取るべく闘う人々の活動について。

カースト制度とは  
世界で最も古い社会的階層の基礎知識。  
まとわりつくカーストの意識  
西洋社会へ行ってもカーストは無関係ではなく、母国と同じような階層化や差別が見られる。

KR・ナラヤナン元大統領のインタビュー  
ダリット出身で唯一インドの大統領に就いたナラヤナン氏に、彼がたどってきたダリットから大統領への道や、カーストの今後について聞いた。

身分による差別 その事実

バラモンとして  
バラモンの作家が、バラモンとカーストについて語る。

マリアンマの屈辱  
ダリットの女性作家バマの小説の抜粋。上位カーストの男による強姦から逃れたマリアンマが、被害者であるにもかかわらず村人や父親から非難されてしまう。

ネパールのダリットの現状  
ダリットを、当然手を組む仲間と見るマオイストと、マオイストの支援者だと見る政府。ももとの厳しい差別に加え、今日新たな試練が生まれている。

私の受けた結婚差別  
日本の部落差別は、今日なお結婚の障害となっている。被差別部落の男性と結婚しようとした女性の苦渋の選択。

アフリカのカースト制度  
家系や職業による差別は、アフリカにも存在する。殺人になることはまれだが、差別意識は社会に大きな影響をもたらしている。

アクションと書籍の紹介

\*\*\*その他、世界の情勢を伝えるニュースやレポートも掲載\*\*\*

NI (英語版、A4サイズカラー、約40ページ) と日本編集のNI-Japan(日本語、A4サイズモノクロ、12ページ)をセットでお届けします。

【年間購読(1・2月号は合併号のため年11回発行)】

1年間 10,500円(送料、消費税込み)

2年間 19,000円(送料、消費税込み)

【お試用最新号またはバックナンバー】

1,000円(送料、消費税込み)



インドのリーラベンは、糞を入れたかごを頭に載せて運ぶ作業に彼女の一生を捧げてきた。欧米では、結婚相手などの社会身分に属するかをいまだに気にする人々がいる。日本では、部落の人に対する憎しみをあおるためにインターネットが使用されている。

これらは、社会の「下層」または「不可触民」という身分階層に生まれた2億5千万の人々が直面する数えきれないほどの差別の一部である。

今日、このような境目に置かれているアジアの人々の多くが、自分たちのことをダリットと呼んでいる。ダリットとは、「壊された人々」という意味であるが、彼らを抑圧する体制への積極的な抵抗の象徴ともなっている。彼らの心の支えは、インドの憲法を起草したダリット出身のアンベ-ドカル博士だ。彼は次のように述べている。「私たちの闘いは、富や権力を手にするためのものではない。それは、人間としての人格を再生するための闘いなのだ」。だが恥ずかしいことに、その闘いは21世紀に入ってもなお続いている。

NI-Japan No.68 2005年7月号  
カースト～いまだにはびこる身分差別

< 内容 >  
(本文は日本語、一部英語です)

< NI本誌記事の翻訳 >

カースト制度に立ち向かう(NI p9-12の翻訳)

< Reporting from Japan >

日本とインドでの差別の現実  
～そこから何を学び、何ができるのか  
反差別国際運動(IMADR)スタッフ  
坂東希氏へのインタビュー  
反差別国際運動の紹介と部落問題関連書籍の紹介

< Information >

次号のご案内、開発教育全国研究会のご案内、編集後記など

< Country Profile >

「世界の国のプロフィール  
ソマリア」  
(NI p36の翻訳)



\* ホームページでは、購読お申し込みやバックナンバー照会、無料メールマガジン申し込み等がご利用頂けます。